

広汎性発達障害の疑いのある大学生の支援事例

山下 京子

(2006年10月5日 受理)

A case study of helping a college student suspected of Pervasive Developmental Disorder

Kyoko YAMASHITA

Abstract

Pervasive Developmental Disorder is a comprehensive concept of disease characterized by interpersonal disorder, communication disorder and stereotypy including stickling and being less interesting. Asperger syndrome is known to belong to a type of slight Pervasive Developmental Disorders. The client of this case suspected of Asperger syndrome was a female college student complicated with epilepsy. Psychological interview with her was continued for 2 years at a school counseling room and I supported her till graduation from the university. Here, I report the courses of psychological interview and her behavioral and psychological characteristics, and discussed the case from the aspect of Pervasive Developmental Disorder. In addition, I discussed about the way of student support.

1. は じ め に

小・中学校のスクール・カウンセラー活動や大学における学生相談活動を行ってきて、ここ数年の相談事例の特徴を挙げるならば、発達障害の疑いのあるケースが増えてきたことである。発達障害とは、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）の包括概念であり、現在、特別支援教育の対象とされている。平成15年3月の「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（文部科学省）では、「特別支援教育とは、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、その対象でなかった LD, ADHD, 高機能自閉症も含めて障害のある児童生徒に対してその一人一人の教育的ニーズを把握し、当該児童生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育

や指導を通じて必要な支援を行うものである。」と定義されている（文部科学省，2004）。発達障害者支援法（平成17年4月1日）も施行され，障害のある子どもを生涯にわたって支援するために，個別の支援計画が必要であり，それは大学においても例外ではなく，障害のある学生に対する適切な教育上の配慮が求められる。

発達障害のある学生の例としては，独立行政法人国立特殊教育総合研究所（2005）によると，①対人関係に困難のある学生，②不注意，自己管理に困難のある学生，③読み書きに困難のある学生を挙げることができる。大学の学生相談で発達障害が注目されるようになったのはごく最近のことであり，これまで「変わった学生」としか扱われなかったケースの中に，発達障害の問題を抱えている場合があると予想される。ここに報告する事例は，対人関係に困難があり，発達障害が疑われる大学生女子であるが，十数年以上前のケースであり，当時カウンセラーとして，このケースに対して発達障害の視点を持ち合わせないまま，2年間の学生相談を行っている。その面接経過を報告するとともに，発達障害の視点からケース理解を行うことで，大学における発達障害を持つ学生の支援のあり方について考察を加えたい。

2. 事例の概要

クライアント（以下 Cl. と略）：A子（来談時短期大学1年生）。平均的身長，痩せ型。ひょろりとした印象。チックのように，時々目をしょぼしょぼさせる。話し方は独特のものがあリ，対面して話す時の Cl. の表情はそれほど不自然さを感じさせないが，集団では表情が硬く，学内で出会っても，その表情を崩すことはない。また，動作が多少ぎこちない感じを与える。長髪でいろいろアレンジして，服装も今時の若者らしく奇抜で目立つが，芸術系の学生が多い学内で違和感はない。

主訴：集団が怖い。ひとりになりたひ。

来談に至る経過：入学後まもなく，掲示板に貼ってあった学生相談室の案内を見て自発的に来談。Cl.「カウンセリングの先生ですか？」と訪ねて来た。

生育歴・家族歴：両親と弟，祖母（途中から同居），A子の5人家族。来談時は，A子のみ進学のため他県で寮生活。両親によると，幼少期は活発，小学校時代は友人が多く，明るい子だったというが，詳細な生育歴は聞いていない。中学校入学後，いじめにあった。当時両親はいじめのことを知らず，A子が高校生になって告白して初めて知る。いじめの内容は「カバンに大麻が入っている」などの中傷，スカートめくりなど。高校進学後1年生の秋，A子が夜泣いて自室から出てきて，「中学2年の時いじめられた。その時お母さんは話を聞いてくれなかった。」と訴える。同年11月，中学時代からの友人の一人（別の高校へ進学）に電話して，「死のうか。」

と言ったら「死んだら。」と言われて、次の日授業中に薬を飲む。学校から家庭に連絡あり、「病院へ行かれた方がいいですよ。」と教師から言われた。病院で ICU に一泊、カウンセリング 1 回の後退院。薬も出たが飲まなかった。自殺企図のきっかけとなった友人とは高校が違うこともあって以後の付き合いはなく、高校時代は同じ中学出身の B 子だけが唯一の友人であった。その後問題なく高校卒業。他県の短大へ進学するために親元を離れる。

3. 面接経過

1 期(＃1～10) 大学入学後から夏休みまでの約 4 ヶ月間。初めての寮生活で不安が高まったが、学生相談室に自発的に来談し、大学生活へ順調に適応した。授業への出席状況良好。対人関係は表面的ではあるが、Cl. の趣味の世界を媒介とした寮内の学生とのかかわりが見られた。ただし、特定の友人はできず、学内では常に一人で行動していた。面接ではよく喋るが、話し方に独特のものがある。

＃1 (X 年 4 月) 非常におびえた様子で相談室に飛び込んでくる。うつむいたまま、自分が寮生であること、高 1 の秋に『完全自殺マニュアル』を読んで服薬自殺未遂をしたことがあること、集団が怖くて女子はどこへ行くのも一緒というのに付いていけないことを早口で次々と話す。よく話すが、おびえた感じと抑うつ的な印象を強く与えた。「部屋で泣いていたら、同室の子が気遣ってくれるが、一人になりたい。自殺しようとした人の気持ちはその人でないとわからない。」と訴える。ひとりになれる空間が保障されれば、落ち着けるということで、新入生には二人部屋を寮の規則としていているところを、カウンセラー(以下 Co. と略)が寮監(女性)へ電話連絡し、事情を説明して一人部屋への移動の検討を依頼した。また、Cl. には 2 日後に Co. の研究室まで訪ねてくるように指示した。

同日、寮監から、副寮監(女性)と話し合い、Cl. は即日一人部屋に移動することが決まったと報告を受けた。2 日後、Cl. は前回とは別人のように明るくなって来室。「一人部屋になって何とかやれそうです。」とのこと。連休明けの面接を約束した。

＃2 (X 年 5 月) 趣味のコレクションや、寮に持参したゲームについて話す。寮での生活については、Cl. の希望通り、個室部屋に移動したが、「人に来てもらいたい。誘って一人来てくれた。」と言う。「娯楽室というプレートを張ろうか。」「ゲーム嫌いなんだろうか。挑戦者求むの貼り紙をしようか。」など、いろいろ考えており、何気なさを装うつもりのようである。Co. 「一人になりたいと思って一人になったら、今度は誰かと触れ合いたくなってきた?」と聞くと、Cl. 「そう誰か来てほしい。協調性がないから浮いてくるんだろうか。」と言う。Co. から「しばらくここで話をしてはどうか。」と面接の継続を提案したところ、Cl. も承諾した。週 1 回 50 分

の面接契約を結ぶ。

同日、両親が寮監の要請により来訪。所属科の教務職員(女性)、寮監、副寮監、Co. が対応。両親ともおとなしそうな感じの方で、A子のことをひどく心配していた。母親は「私が悪いのだけれど」と何回か繰り返し、やや防衛的な印象。母親は病弱ということで、一人で遠出はできないため、両親で来学したとのこと。後の面接の中で、母親にてんかんがあることがわかる。

3 隣の市まで自転車で1時間かけて出かけた。Cl.「休みに出歩いてお金を使ってしまう。バイトをしようと思う。」と言い、学生部でガソリンスタンドのバイトを見つけ、面接に出かけたとのこと。バイトの条件の時間帯が授業時間と合わないのではと、Co. が指摘するも、全く気にしていない様子。よく喋り、ゲーム、占い、唯一の友人B子についてと、話題が次から次へと飛び、Co. が口を挟む間もないほどであった。喋りながら、頻繁に瞬きチックが出る。ゲームについては、小学校5年生の時、ファミコンをしていて泡を吹いて気を失っていたことがあり、医師よりファミコンを禁止されたことがあるという。ゲームについてはマニアらしく、非常に詳しい。占いについては、一時期はまっていたが、「まがいのもの。人を惑わすもの。やってはいけない。」「勉強が良くできる占いがあるが占う間にやったらいい。」など、否定的な感想を述べる。Co. から、「占いをしてあげると言ったら友人が遊びに来るかも。」と提案したが、Cl.「楽しくないですよ。いんちきだから。」とそっけない。

4 Cl.「日曜日に11時から4時までゲームをしていたら鼻血が出た。これはやばいかなあ。」と、休日はゲーム三昧だったとのこと。バイトについては、「電話がかかってこない。他のバイトを探すのも、悪いし。」と採用の電話をひたすら待っている様子。Co. から、電話で問い合わせしてみても提案した。なかなか親しい友人ができないことが気になるらしく、「友達ができんのは自分が変わっているからかな。おかしいんだろうか。ひとりでもいいけど、ずっとひとりも寂しいなあ。同じ趣味の人はいないかなあ。皆二人部屋でどうもないんだろうか。」とつぶやく。新入生歓迎コンパに着物を着て参加したことも気にかかり、「変なやつと思われたかなあ。思われてもいいけど、やっぱり思っただろうなあ。」と他の学生に自分がどのように映るのかを気にする。クラブへも勧誘されて入部している。「部室でウサギを飼っていた。自分もウサギを飼っている。ウサギを飼っているから、変な部ではないだろう。」と奇妙な関連付けをする。

5 Co. 「1週間どうでしたか?」とたずねると、「いろいろあったなあ。」と言う。寮生2人がCl.の部屋の外にいたので、部屋に招き入れ、ジュース、お菓子でもてなし、コレクションや、ゲーム、CDを見せ、CDを貸してあげた。数日後に部屋の前にCDが置いてあり、「ありがとう。教育実習に行ってきます。」と書いてあった。Cl.「びっくりしたなあ。2年生だったんだなあ。」と嬉しそうに報告。クラブについてCo.から感想を尋ねると、アニメやゲームの

好きな人が集まっているクラブだが、特別な活動はしていないらしく、Cl「うさぎがかわいい。」ということであった。日曜日には、商工会議所主催のバスハイクに行ったということで、バスハイクの様子を詳しく説明してくれる。商店街から缶コーヒーのお土産があって、係りの人から持ち帰ってよいと言われ、缶コーヒー1ケース(24本入り)を持って帰り、寮の人に配ってあげたとのこと。Cl「商工会議所の人こんなにしてまで若い人に残って欲しいんかなあ。もっと別の企画をした方がいいんじゃないか。」と真剣に考えている。

去年から今年にかけて散々な年だった。弟が夏休みから不登校。母親が救急車で入院。祖父が死亡。家族で乗っていた車が事故にあって廃車になった。実は古くからある占いの本であけてはいけないページがあって、あけると8ヵ月後に悪い事が起こるが出版社は責任持たないと書いてあった。Cl「自分のせいで自分に悪い事が起こるのは仕方ないけれど周りを巻き込んでしまった。」と真剣に悩んでいる。Co「もう開いてしまったんだからこっちもお呪いで無事に過ごせるようにお祈りを毎日しよう。」Cl「それは怪しい。何か怪しい。」それまでの深刻さとは打って変わって大笑いをする。

この時期、学内行事があり、Co.も参加していてCl.と出会うが、Cl.は無表情でCo.のそばをスーッと通り過ぎた。Cl.の表情は硬く、面接場面での様子との違いにCo.は驚く。#5で、Cl.はその行事についても触れ、「少しも面白くなかった。先生は行かれましたか。」と聞き、Co.に会ったことに気付いていないことがわかった。学内で出会っても、Cl.がCo.に気付かないことが多く、このことに関しては以後も変化なかった。

#6 Cl「友人、少ないかもしれない。(自分は)変わっているから。平凡な人は友達にいない。」高校時代B子と二人で浮いていた。B子は在学中に家庭の事情で退学し、夜間働いている。文通相手は5、6人いて、雑誌で知り合った人や、ゲーム関連の人。Co.から文通相手はどんな人かと尋ねるが、占いやゲームのことしか書かないので、わからないと言う。面接途中で医務室利用(相談室が医務室と兼用になっている)のため中断。他人が入ると、表情がスーッとさめる。他者を寄せ付けない印象を与える。

#7 いつものようにゲームの話。非常に詳しく、ほとんど知らないCo.に丁寧に説明してくれる。以前面接に行ったアルバイトは夏休みに働けないという理由で不採用であったが、Cl.自身、あまり気にしていない様子であった。授業で教職を取っていることから、中学時代のことが話題になる。

中学の時はいい思い出はない。中学生はああいう時期なんだろうか。自分は普通の人だったのに、中学で変わった気がする。変わっていたからといっていじめていいとは思わんけど。Co.「教職をとった理由は?」出身中学を見たい気もある。中学の時、国語のテストで最高点を取ったことがある。他の教科はできなかったが、国語だけは頑張った。国語の先生がほめてく

れた。

#8 相談室に買ったばかりのコレクションを一つ持参して、Cl.「先生、こんな知っている？」と Co.に見せてくれる。学内での対人関係は、相変わらずほとんど皆無と言ってもよいほど持つことができないが、寮内では、ゲームを媒介とした交流が持てるようになり、Cl.の部屋を寮生が訪ねた時の様子を淡々と語る。

日曜日、以前来てくれた人がたくさん友人を連れて来てくれた。部屋にあるコレクションを見せると、とても喜んでくれた。その後また別の二人が「ゲームさせてください。」と来室。いつもは一人で寒々しいのに、昨日は暑いくらいだった。娯楽室のプレートを張っているし、やっぱり皆が来てくれるといいなあ。これからもプレートに嘘のないように頑張らんといけん。

#9 寮内での交友関係は、ゲームだけでなく占いも媒介にして続く。昨日も寮生3人が占いをして欲しいと言って来室したという。Cl.「恋愛占いでインチクさいのにいろいろ聞かれた。」また、Cl.「夏休み後、大学に戻って来れない気がする。占い師の勘かな。」とも言うので、Co.「頑張って戻って来て。」と頼むと、Cl.「一応頑張ってみるけど、どうしてもだめなこともある。」と答える。さらに、Cl.「器のでっかい人になりたい。」Co.「どんな人？」Cl.「なったことがないからわからんけど、いろんなことを知っていて心の広い人かな。」Co.が文脈を読めないでいると、唐突にCl.「パブで働いたら退学になる？」と聞く。Co.「どういうこと？」と聞き返すと、Cl.「世間知らずなので、いろいろ世間を知らんといけん。B子のところで働くつもり。」と言う。Co.から退学処分にならないと思うが、別の方法は考えられないかと提案すると、Cl.「言わんにゃあよかったかな。」としきりに繰り返していた。

#10 夏休みを前に荷物を実家に送った。Cl.「早く帰りたい。すごく帰りたい。でも帰ったらつまらんかもしれん。離れているから帰りたいんかもしれん。」寮生がCl.の部屋に遊びに来るのは続いており、昨日もゲームをしに来た人や、占いに来た人がいたとのこと。

Cl.「皆、夏を前に気になるんじゃないなあ。」Co.「何が？」Cl.「出会い。自分はどうなんじゃろうなあ。どうでもいいけど。」Co.「自分のを占ってみたら。」Cl.「占い師は自分のことは占わないの。」Co.「ふーん。なんで？」Cl.「そういう掟というか決まり。」

Ⅱ期(#11~19) 夏休み明けから、1年次終了までの約8ヶ月間。授業への出席状況も良く、これまで学業で問題になることはなかったが、実技の授業で、教員の指示に従わずに課題を制作しようとするのが何度もあり、注意を受けるようになった。Cl.は何度注意を受けても、頑なに自分の意志を押し通してしまう。日常生活では、アルバイトを始めたために、寮食を抜くことになったり、事件に巻き込まれたり、さらに冬休みにはてんかんの発作を起こしてしまう。対人関係については、相変わらず学内での友人はいないが、寮の隣室のC子とはかかわり

が持てるようになる。

#11 「風邪を引いてしまった。」と言いながらも元気に来室。夏休み中に10日間B子の勤務先でバイトをしたと言い、その時の生活の様子を説明する。食費を切り詰め、体重も6キロ落ちたとのこと。Cl.「電話もテレビもないワンルームマンションでの生活は怖かった。」Cl.「お金のありがたみがすごくわかった。なのにもらったお金はゲームを買って名刺を作って、あっという間に使ってしまった。」またせっかく作った名刺だが、B子と文通相手に送っただけで、あげる人がいないとぼやく。Cl.「自分には友達がいなかったことがつくづくわかった。」

#12 Cl.「私大変なことになっている。」と、授業を抜けて、相談室へ飛び込んでくる。カードをバックで4日間連続して買ったという。「一体どのくらいつぎ込んだのだろう。カード破産だ。」「私、病気かな。」などかなり興奮している。Co.が「電卓を持っているから計算してあげよう。」と計算すると、1万円弱であった。Co.「まだこんなものよ。」と言うと、Cl.「先生にとってはボンと出せるお金じゃろうが、私にとっては大金。」と言って、ぷんぷん怒る。

Cl.「カード、しょうもないもんじゃないか。なんにもならんもんじゃないか。」Co.「でもあなたにとってはとても価値のあるものではないでしょうか？」Cl.「そうだけど、このまま行くとカード破産。」Co.から、お小遣い帳をつけてここまでは買えるという風にやってみたらと提案。Cl.は、自分の趣味にかかるお金を賄うために、アルバイトを始めたと言う。雑貨屋で週4日バイトで、寮食を抜いてしまうことが多く、隣室のC子がバイト先からもらってくる食品を数人で夜に食べていると説明。#12で初めて、他学生の名前が出て来て、交流の様子も具体的に語られた。さらに、この回、Co.の担当する教職関係の授業で、課題に出ていた「いじめについてのレポート」を発表する役をやりたいと申し出た。

2日後、Cl.は授業でレポートを発表する。授業終了後も、気分の高揚が続き、その日の昼休み、Co.の研究室へ来て、喋り続ける。Co.から所属学科の教務職員に連絡し、「時々声をかけて、様子を見てほしい。」と頼む。教務職員から、「授業担当の先生方にも注意して見守って欲しいと伝えましょう。」とのこと。

#13 先週とはかなり印象が異なり落ち着いている。いやな夢を見たと、夢2つ報告。

夢① 中学時代の男の子。いやなやつだった。その子に向かって、スタンガンを使う。やっつけるというよりも自分を守るためにスタンガンを使っている。相手もなかなか強くて、こちらにも衝撃が走る。自分の手足を見ると真っ黒になっていて、やけどをしている。そこへ救急車が来て、その男の子は連れて行かれた。良かったと思って、お父さんが来たのに、助けてくれない。今まで使ったことなかったのにとうとう使ったんだと思ったところで目が覚めた。

夢② 専門科目担当の先生が家に来た。賞味期限の切れたパンをどうぞと出している。嫌いな先生だから嫌な感じ。

Cl.「二晩悪夢が続いた。夢占いとかありますよね。どんな意味があるんだろう。」と言うので、Co. から、「先週の授業、少ししんどかったのではないか。中学時代のこと、対決するにはまだ少し早いのかも。傷ついてしまったのでは？」と案じるが、Cl.「そうかな。そうでもないけど。」と答える。

#14 Co. が急用のために出勤できなくなり、昼休みへの時間変更を伝えてもらう。昼休み残り時間5分のところで入室。Cl.「9時15分に来るっていうから、眠ってきたいなと思ったのに来たのに。」と立腹の様子。Co. が謝り、事情を説明すると、Cl.「あーそうだったんですか。」とあっさり答える。行方不明になった他学科の学生のことを心配している。バイトはプレゼントのシーズンでラッピングに忙しいとのこと。

#15 入室するなり、Cl.「今日警察に行かんといけん。時間が無い。あの人がどうなりましたか？見つかりましたか？参考になるかもしれないから警察に行く。」と捲くし立てるように言うが、非常に興奮していて、Co. には話がわからない。「どういうこと？」とたずねると、学生課で話すように言われているとのことで、学生課へ行き、学生課の教員、寮監、副寮監とで Cl. の話を聞く。Cl. によると、事件の概要は次のようであった。

バイト先でずっとそばにいる男性に気づいて、社員の人に言ったが「気のせい」と言われた。昨日、自転車で帰る途中にその男性に車で待ち伏せをされていて、車に引きずり込まれそうになったが、何とか逃げ帰る。副寮監に報告し、警察へ通報したとのこと。男性に携帯の電話番号を教えてしまったので、昨日深夜に電話がかかって来た。

その後、Cl. は学生課教員とともに警察へ。今後の対応について、警察からアドバイスを受ける。

#16 事件のその後について。バイト先の社員の男性に、「それはあなたが悪い。」と言われ、ショックだった。あなたも悪いではなくて、あなたが悪いと言われて、警察にもいろいろ言われたけれど、あれが一番ショックだった。泣いてしまった。謝ってくれたけど。帰って寮の人とか副寮監の先生に話したら、怒っていた。二重に傷つけられた Cl. の痛みを Co. もひしひしと感じた。行方不明の学生の件と今回の事件は無関係であることを確認しあう。

その後、冬休みに入る直前に、容疑者は逮捕され、Cl. は親に迎えに来てもらい帰省した。

#17(X+1年1月) 正月に意識がなくなり救急車で病院に運ばれる。脳波異常が出て、薬を飲むように言われた。母親はてんかんがあり、自分も同じ状態になるので、自分もてんかんだと思うが、医師に何の病気ですかと聞いてもはぐらかされる。医師より寮監に言うておくように言われたので、薬を飲むことを報告したら、バイトをやめるように言われた。Cl.「めったに怒らんけど、自転車のキーホルダーがぶちっとちぎれるくらい怒った。」

#18 バイトは続けている。朝起き難い。Co. から無理しないで、睡眠不足にならないよう

にと助言。元気いっぱいだけで少し疲れている感じ。

#19 薬を飲んでいと言ったら献血を断られたと言い、Cl「悔しい。人の役に立てない。」と悔しがる。献血に対するこだわりがあり、Cl「薬、10年飲むように言われた。一生献血できん。」と繰り返す。また、学年末で課題とバイトで忙しいと言い、自分で勝手に面接時間を切り上げようとする。Co. から、発作が起きやすい状況（深酒、睡眠不足）を避けようと助言するが、Cl「時間ないから、またね。」と言って退室。

Co. はこの時期、Cl が病気とうまくつきあえるように支援することを面接の目標に設定している。同時に、Cl はなぜ Co. のところに来るのかとふと疑問にも感じている。

Ⅲ期（#20～27） 2年次進級から、夏休み前までの約4ヶ月間。交通事故に遭ったり、寮内やアルバイト先での対人関係でストレスを抱え、不穏な行動も出現する。寮内での対人関係はほとんどなくなり、授業でも教員の指示に従わずに課題に取り組み続けるなど、孤立していく。教育実習は、家族の全面的な協力もあり、何とか乗り切る。

#20(X+1年4月) 2年生に進級して来室。非常に疲れた様子。Cl「ここ何日かだるくて仕方がない。」薬を飲むと眠くてたまらないと医師に訴えたが、体が慣れていないだけと言われたとのこと。朝は始業ぎりぎりに起きるため、朝食は抜き、昼はあるものを食べて、夕食はバイトのために抜くと言う不規則な食生活を送っている。Cl「大学も寮もいや。もうどうしてもよくなった。」と投げやりな調子で語り、楽しみにしていた授業が開講されなくなったこと、早く寝たいと思うのに、夜10時から寮のコンパがあることなど、どうしてもよくなった理由を次々と述べる。Cl「今気付いたけど、私は一つつまずくと、すべてつまずいてしまうんだな。」Co. から「気を取り直して一つ一つやっつけていこう。」と言って、次の3点を提案した。①薬については、診察時、大学の Co. から朝起きれないことを言うように言われたと付け加えてはどうか。②バイトを毎日ではなく、週1日程度の休みを入れてはどうか。③昼食を学生食堂でとるようにはどうか。退室間際に、Cl「寮の人から、ほおっておかれている感じがする。」とつぶやいたのが印象的であった。

#21 入室するなり、Cl「土曜日、救急車のサイレン聞いた？」と聞く。自転車に乗っていて交通事故に遭い、救急車で病院へ運ばれたという。自転車は壊れたが、怪我はかすり傷程度で済んだと話す。Cl「自転車を弁償してほしい。お見舞いに来るかと思ったら来なくて、フルーツかごくらい持って来ればいいのに。」と怒る。Cl「とにかくむかつく。」ということで、寮のコンパの話題が出る。Cl「社交辞令で誘いに来ればいいのに、ほっとかれて、部屋ですねていた。途中お金を出したということで、料理を持って来たが、来るなということかと思ひ腹が立って、料理をいらんと返しにいった。」Co. から、Cl が「お金は出すけど出席はしない」と言っ

たことを確認し、そう言われた人が誘わないのは普通なのではないかと説明した。Co.「出るのは嫌だなと思いつつも、誘われないとはずされたみたいなのね。」Cl.「今、精神的にいらいらしている。」

#22 Cl.「就職のための資料を企業に請求したのに返事が来ない。」といらいらして訴える。かたくなさが一段と高まった印象。「大学が嫌になってきた。」「この町は大嫌いな町だ。」と否定的な発言が続く。Co. はひたすら聞き、「嫌いでいいから、よく眠り、よく食べよう。」と返す。出張のために次回の予定変更について告げると、Cl.「お土産買ってきてえ。」とニヤニヤしながら甘えたような口調で言い、退行した印象を受けた。Cl.「自転車が来たが、フルーツかごは来なかった。」と、フルーツかごへのこだわりが続く。

#22の2日後、寮監、副寮監から Co. に次のような連絡が入る。

数日前の夜、Cl. が寮の廊下に突っ立ち、片手にカッターナイフを持ち、刃を出したり入れたりを繰り返していた。副寮監が気づき、声をかけると、Cl. は「うるさくて眠れない。」と言う。館内放送をして静かにするように呼びかけるとともに、Cl. をなだめて部屋に帰した。翌日の夜、夜間の洗濯機使用は禁止されているにもかかわらず、Cl. が使用していると、他の寮生から副寮監に苦情が入る。寮生たちの間で、「自分はいらさう言うくせに、もっと遅い時間に自分からうるさくしている。」と Cl. に対する不満も出るようになった。また、寮生たちは、Cl. に不気味な感じを抱いて遠巻きにしているように、副寮監には思える。翌々日の夜も、前日副寮監から夜間の洗濯機の使用について注意されたにもかかわらず、Cl. は洗濯機を使用していた。当番の学生が、Cl. とは知らずに、館内放送で洗濯機を使用している人は来るようにと呼び出しをしたところ、Cl. がやってきて、カッターナイフを学生の前で放り投げた。寮監、副寮監としては、高校時代の自殺未遂の件もあるし、教育実習も控えていることから、両親に来てもらうことにしたということであった。

数日後、両親が来学。所属学科教員、実習担当教員、寮監、副寮監、Co. の5人に対応。両親の説明によると、投薬については医師によって意見が異なり、飲まなくてもよいと言う医師と飲んだ方がよいと言う医師がいる。Co. から、夜寝つきが悪く不眠傾向があることを医師に相談して欲しいことと、食生活が十分でなく朝と夜を抜いている状態が続いていることを告げた。

#23 両親が来たことで、精神的に安定したのか、Cl. の顔つきは穏やかで、緊迫感は取れていた。就職の資料請求を何度もしているが、まだ連絡がないこと、給与などの条件より、好きなことにかかわれる仕事をしたいと抱負を語る。先週の両親の来訪については、Cl.「怪しいと思うが、何回聞いても、顔を見に来ただけと言う。」睡眠について確認すると、薬を早めに飲むようにしているが、夜なかなか眠れないということであった。

#24 Cl.「しょうもないことなんだけど。」と前置きをして、話し始める。

調子が悪い。昨日夜、バイト先から泣きながら帰った。掃除やレジ締めを頼まれるようになって、8時に帰れなくなった。7時から掃除をしてレジ締めをしながら、お客の対応する。しんどくなる。店長が8時前に来た客としゃべっていてレジ締めができない。「しゃべっていないでレジ締めてください。」と呼びに行ったら、来てくれたけど、「商談の途中で話の腰を折られた。あんなことを言ってもらうのは困る。」と言われた。自分はなぜもっとしっかりできないんだろうと思ったら、涙が出た。

Co.に話をしながらぼろぼろと涙を流し、Cl.「私は弱いんだろうか。もっとしっかりしないとイケないのに。」と言う。Co.「弱いと言うよりは感じやすいと言うことはあるかもしれない。」と言うと、Cl.「最近ちょっとしたことで泣いてしまう。授業の課題でも人と違っている。変わっているんだろうか。」と言う。Cl.「教育実習、しんどい。でもここで行けなかったら、私は一生後悔する。行ってみたい。」

#25 #24の1ヵ月後、教育実習を無事済ませて来室。

教育実習のために帰省する直前に、忙しい時に手伝ってくれる人を探すと言われ、バイトをクビになった。教育実習は6時半に起床で、ほとんど眠れなかった。終了後ダウンしてしまった。実習中、自分は中学時代、何が嫌だったんだろうと考えた。学校、先生、同級生。思い出の場所にも行ってみた。自分のことが嫌だったんだとわかって納得した。すっきりした。実習をして、先生が忙しいのも良くわかった。あれではひとりひとりのことを考えられない。他の実習生からは、個性的、面白い人と言われ、打ち上げにも行ってとてもよくしてもらった。

#26 Cl.「夜眠れない。昨日は朝の4時に就寝。」と、不眠傾向が続く。家のことが話題となり、弟がいじめられて不登校になったこと、母親が倒れて内職をやめ、弟の学費が出せないことなど次々と語り、Cl.「こんな大学に来たばかりに家のお金がなくなってしまった。」と大学批判を続ける。

#27 授業で講評があり、「あなたらしい」と言ってくれる人もいたのに、先生からは「もう少ししなやかにできないのか。理解に苦しむ。」と言われた。以後、教員に対する批判が続く。中学校の先生からは「生徒の意欲を引き出す」「ほめて育てる」と指導を受けてきたのに、大学の先生にもう一回教育実習に行ってほしいくらいだ。中学校の先生は残業手当もなく働いていると理想化。Co.「理解して欲しかったのよね。」と言っても、Cl.「理解できない人だろう。」と素っ気無い。

Ⅳ期(#28~36) 2年次夏休み明けから、年末までの約4ヶ月間。食事を制限したり、過度な運動をしたり、さらには過密スケジュールでバイトも始めるなど、過活動的になる。寮内で

は、Ⅲ期の問題行動もあって、寮生からは距離を置かれていたが、自分から友人の輪に入ろうと試みる。また、自分が浮いてしまうことに対して、何とか対処したいという気持ちも語られた。

#28 Cl.「修行をしている。肉と魚は食べない。」理由を聞くと、Cl.「就職して生活費を節約するために今から粗食に慣れておく。身体作りのために1万歩毎日歩くようにしている。一日3万歩歩いたこともある。」と言う。夏休み中に、会社の就職試験を受けに行って一人だけ普段着で浮いていたこと、試験の後食事をしていると、「あの人よ。」と同じ試験を受けた人達から言われたこと、直接色々な会社を回り、追い返されたことなど、就職活動の様子を語るが、うまくいかなかったことに対して特別な感情はない様子。

#28の数日後、寮食堂の栄養士から寮監に電話があり、Cl.がご飯と漬物以外食べていないので心配だと言われたと、寮監から報告あり。Co.は食事を取らなかった時期に比べれば、ご飯だけでも食べているとポジティブにとらえてやってほしいと返答した。

#29 予約時間の1時間前に授業用具を探しに来室。相談室に置き忘れていないことがわかると、Cl.「どうしよう。皆もうやりはじめているのに。」と困っている。そのまま授業へ出席。授業終了後、再び来室。授業用具は、先輩の物を借りて済ませたと言う。Co.から、栄養士の先生がご飯と漬物しか食べないと心配して寮監に話したことを話題にすると、Cl.「ご飯にふりかけ、梅干で食べている。何でそんなこと言うのだろう？」といぶかしがる。Co.が「心配しとってと思うよ。」と言うと、Cl.「健康的なのに。青汁も飲んでる。」と答える。青汁について説明を延々としてくれる。Co.「私も飲んでるよ。」という、Cl.「負けられん。私は1日3回飲もう。」と応じる。また、クラブの部屋について、Cl.「どうして壁をメモ代わりにするんだろう。ガラスを割ったり、勝手に物を持ち出したり。」と怒る。こういうところは、非常に真面目であり、本気で考えて本気で怒っている。

#30 Cl.「昨日からスーパーのレジのバイトを始めた。」と報告。平日1日のみ休みで、3日間は朝から夕方まで、2日間が夕方から夜まで、1日が午後から夕方までという過密スケジュール。Co.から前のバイトのことを取り上げ、あまりにゆとりがないことを指摘するが、Cl.「ちゃんと食べるし、暇だとだめ。何かしていると調子いい。」と言って変更の意思はない。

#31 大学祭でクラブの出し物をするので、その準備をひとりでやっていると言う。売り上げはユニセフに寄付したいと考えているとのこと。スーパーでのバイトの様子について、おつりの渡し間違いに神経を使うことや、休憩時、他のバイトの人達はしゃべっているが、自分は新入りなので、ひとり部屋の隅にいと話し、Cl.「それはそれで寂しいものがある。」と述べる。また、Cl.「甘いものが無性に食べたくなる。体はもう入らないのに、食べても食べても食べた。」と話すので、Co.「空腹なのは体ではないんだろう。」と言うと Cl.「えー、心？心かあ。」と

言って笑う。退室前に、唐突に Cl.「霊いると思うか？」とたずねる。Cl.「部屋の電気を消したらパチパチ音がして誰か人の気配がする。」という。Co.「来週までいたら、どうするか相談しよう。」と答えた。

#32 学園祭で売り上げが1万円以上あったと、嬉しそうに報告する。クラブについては、Cl.「何をやっているクラブかよくわからない。1年生もいないし、もっと役に立つクラブをやればいい。」と述べる。また、卒業までにしなくてはいけないことがいろいろあると言い、Cl.「就職のことも考えなくてはいけない。」など、現実に関心を向け始める。

#33 Cl.「自分は思っていることを何でも言うし、言っていることが考えていることで、今秘密がある。」と、寮内での対人関係のトラブルについて説明し始める。

寮生のC子が、同じ寮生のD子、E子とわいわいやっていて、「楽しそうだな。入れてほしいな。」と思って、「私も混ぜて。」と言ったら、D子は嫌がったが、C子が事情を説明してくれた。C子の知り合いの男性を、D子が気に入っているが、その男性はC子にばかり電話をかけてくるといったことであった。Cl.はその男性に電話をかけて、D子との仲を取り持とうとするが、男性からD子と付き合う気はないと言われ、そのことをC子とE子には話すが、D子には秘密にしようとしたところ、D子が感付いて泣いてしまったという。その後、D子から無視されている。

Co. から、「もともとひとりで寂しかったことから始まっている。A子が入っても入らなくてもD子と男性の関係は、今と変わらなかったと思うが、事が大きくなったのは確かだろう。」と指摘した。Cl. は「人を泣かしたのは初めて。いやな気分だな。」とつぶやく。

#34 来室するなり、Cl.「先週相談室に来たら、Co. がいなかった。」と言う。Co. から先週は時間を変更して約束をしていたことを再確認するが、Cl. は覚えていなかったようで、約束した時間にはバイトに出かけてしまっていたことがわかった。Cl.「今悩んでいるのは卒業制作のこと。」と言うが、それ以上話題に上ることはない。バイトは、同じ時期に入った人が、紹介で入ったということで自分よりも時給が50円高いが、がんばらないといけないと語る。時間終了間際に、Cl.「まともな人になるように努力したい。どこへ行っても浮いてしまうのでまともな人になれるように努力したい。」と述べた。

#35 バイトで、レジでの対応に苦労していることが話題となる。

レジに長い行列ができる。客がレジの途中で、商品を取りに行ってしまう、Cl. が待っていると、他の客に「何をぼさっとしてるんだ。ちゃんと働け。」と怒鳴られた。その後、バイトの終了時刻になったのでレジを締めようとして、終了のステッカーを出した。待っていたすぐ次の客に、「私のはやって。」と言われ、その次の客から終了にしたら、他の客から「何しとるんだ。」と文句を言われた。「すみません。」と謝ったが、つらかった。

Co.「どういう風に主任から言われているの？」とレジの締め方を尋ねるが、Cl.「自分で終わるしかない。」と言う。さらに「こんないやな思いするくらいなら、(帰寮時刻が遅れて)寮食を食べれなくなるくらいどうってことはない。」と続ける。授業のことも話題となり、Cl.「今度授業中に講評がある。課題はできているが、気が重い。」と言うので、詳しく聞くと、Cl.「真面目に取り組んでいるのに、先生から、『もう来なくてよい』『ふざけている』と批判される。」と憂鬱そうである。

#36 大きな袋を抱えて来室。Cl.「クリスマス前なので、皆にプレゼントを配っている。」就職については、夏休み以降全く活動はしていなかったが、地元の教育委員会で臨採の募集があるということで、応募してみようと意欲を見せる。Cl.「教育実習の時、自分はめったに人にほめられないのに、ほめてもらった。応募してみようかと思う。」

V期(#37~41) 2年次の冬休み明けから、卒業までの約3ヶ月間。面接で卒業制作の内容が話題に上ることはほとんどなかったが、寮内で制作の材料作りのために、ナイフで切ったり焼いたりをしたために、心配した副寮監から、Co.に何度か連絡が入る。Co.からは、見守って欲しいと頼んだ。

#37(X+2年1月) 冬休み後、予約していた日に来室せず、一週間後に来室。先週の休みは、約束をしていた時間を勝手に変更して来室したらしい。Co.「元気にしていた？心配していたよ。」と言うと、Cl.「へたっていた。もうだめかなあと。精神科へ行った方がいいかと思うくらいへたっていて、薬局を探し回って、薬(以前の自殺企図のときに使用したものと同じ薬)を3箱買った。」と答える。Cl.「冬休みが終わって、寮に戻ったら、皆、進路が決まっていて、自分は進路も決まらず、卒業制作もうまくいかない。Co.はいないし。」ということが原因らしい。卒業制作の評価が特に気にかかっている様子で、Cl.「私は(専門科目の)先生達に嫌われている。私のセンスをわかってもらえない。友人に言ったら、あくが強いからじゃないかと言われた。それはしょうがない。どうしようもない。成績が悪かったら展示をしてもらえない。これだけ一生懸命やっていてだめなのはショックだ。」と考え込んでしまう。購入した薬について、Co.「不安なので副寮監に預けてほしい。」と言うと、Cl.は素直に応じる。

セッション後、Co.から副寮監に、Cl.が薬を3箱持って行くので、保管してほしい旨を告げた。数日後、副寮監から、「2箱だけでもって来た。1箱は飲んでいる。」と報告を受ける。

#38 副寮監から聞いたことを確認する。Co.「1箱飲んだと聞いた。」と言うと、Cl.は、「ビンに詰め替えたが、どこへ行ったかわからなくなった。1錠も飲んでいない。」と主張。卒業制作はあと少しで完成というところまで来たが、新しいゲームに夢中になってしまっていると言う。Cl.「卒業制作で大変なのに、こうしてゲームにはまっているのは現実逃避だろうか。心

に隙間があるのだろうか。」また、昨日、母親から電話があり、経済的に苦しいこと、母親が働きに出たが体を悪くしてやめてしまったことを聞いて、Cl.「実家に帰ろうと思う。自宅にいたら少しは母親も安心するだろう。」と述べる。臨採の申し込みはしたものの、すぐの採用はないようで、Cl.「しばらくアルバイトであちこち探して、仕事を見つけない。」ということであった。

#39 Co. から、「卒業作品が展示してもらえることになってよかったね。」と卒業作品の展示の話題を出す。Cl. は「そうなんじゃないかな。」と素っ気無い。卒業後の進路について、Cl.「もし臨採がだめになったらどうすればいいんだろう。」と言うが、就職活動をする気はない様子。Cl.「寂しくなるなあ。ひとりひとりいなくなって。お別れは寂しいなあ。」とつぶやく。Cl.「最初来たときは刑務所みたいと思った。規則は厳しいし、知らん人ばかりで。」

#40 朝から相談室の人の出入りが多く、Cl. が来室したかどうかかわからず、一段落したところで、Cl. を寮に訪ねた。寮の玄関でばったりと出会い、Cl.「今から起きて顔を洗ってから行こうかなと思っていたところ。」と言う。Cl.「先生、せっかくだから部屋に来て。」と言われ、部屋に入る。二人でテレビ・ゲームをする。卒業作品展示でむかつくことがあったと、C 子の作品展示について話す。

C 子の制作が締め切りまでに間に合いそうにないということで、友達と一緒に学内に泊まり込んで手伝った。締め切りには間に合ったが、先生からやり直すように言われ、やり直したが、作品を搬入した後で、先生から、展示しないことになったと言われた。C 子は平静を装っていたが、さすがに気落ちして見えた。他のコースの学生の作品を見ると、C 子の作品よりも劣ると思える作品が展示してあった。こんな展示だったら自分の作品も展示してもらわなくていいと思った。そこへ同じコースの男子学生が来て、「どうしたのか？」と理由を聞いてくれた。わけを話したところ、「自分の作品にあたってどうするんだ。」と言われて、気分が落ち着いた。

次回で最終回を確認。Cl.「前の私への手紙を見せてください。」1 年次、Co. の授業で Cl. がいじめについて発表した時、受講生に書いてもらった感想のことで、Co. から Cl. に見たくなったら言うように話していた。

#41 Co. から、受講生が書いたコメントを渡した。Cl. は 1 枚 1 枚に目を通して、Cl.「貴重な話をしてくれてありがとうと書いてある。こんなにたくさん書いてくれたんか。」と感慨深げ。Cl.「卒業制作を見る？」と誘われ、作品を一緒に見に行く。その後、クラブの部室へ寄り、相談室へ戻る。学内を一巡した感じ。Cl.「先生には、とてもお世話になったような気がする。皆にかなあ。来たときはいやで仕方なかったけど、卒業していくのは寂しい。これって 2 年間よかったと言うことかな。」Co.「色々私も勉強させてもらった。ありがとう。元気でね。」Cl.「先生も元気で。」

4. 考 察

1) A 子の行動・心理的特徴

A 子の話し方には独特のものがあリ、抑揚がなく、感情のこもらない話し方が特徴であったが、Ⅲ期の甘えたような口調(#22)や、涙を流しながらの内省(#24)などにみられるように、面接の経過とともに多少の変化があり、感情のこもった話し方も少しはできるようになったと感じられる。瞬きチックに関しては、Ⅰ期で頻繁に見られたが、以後の面接場面ではほとんど消失している。おそらく、面接場面における緊張感がチック症状の出現と関係していたのであろう。面接場面におけるA子の表情は、初期の段階からそれほど不自然さを感じさせないが、#6で見せたA子の他者を寄せ付けないような印象を与える表情は、学内で出会った時の表情と同じであり、日常場面で周囲から浮いてしまうことが多いのではないかと容易に想像された。A子自身、「浮いてしまう」と言う感覚をすでに高校時代から抱いており(#6)、大学入学後の寮生活でも「協調性がないから浮いてくるんだろうか。」(#2)と述べている。

面接経過で示されたA子の行動や心理の特徴としては、対人関係の問題、独特の思考様式、こだわりを挙げることができる。まず対人関係であるが、A子は、「友達ができんのは自分が変わっているからかな。」(#4)、「友人少ないかもしれない。(自分は)変わっているから。」(#6)に示されるように、自分が変わっていることと友達ができないことを結び付けて考えている。「自分には友達がいないということがつくづくわかった。」(#11)とA子自身述べているように、A子は、対人関係を作り維持することに困難さを抱えているように思われ、ソーシャルスキルの発達が十分ではないことをうかがわせる。実際、Ⅱ期で、寮の隣室のC子と関わりが持てるようになるが、Ⅲ期では寮内の対人関係はほとんどなくなる。#21の寮のコンパのエピソードに示されるように、A子のソーシャルスキルはかなり未熟であり、Ⅳ期で対人関係のトラブルを生じてしまう。A子の未熟なソーシャルスキルは、アルバイト先での要領の悪さ(#24, 35)にも現れている。特に寮生活は寝食を共にする集団生活であり、対人関係も濃厚になりがちであり、A子にとってかなりのストレスを与えたと推測される。しかし、仮にA子が下宿生であつたら、他の学生とかかわる機会はほとんどなかったであろうことを考慮するならば、寮内での様々な問題はあつたが、寮生活にはA子に対人関係の練習の場を与えるという積極的な意味があつたと評価できよう。

A子はまた独自の思考様式を持っており、例えば、「ウサギを飼っているから、変な部ではないだろう。」(#4)、「器のでっかい人になりたい。」「世間知らずなので、いろいろ世間を知らんといけん。」と夜間のバイトをする(#9)、A子が被害者となった事件と他学科の学生の事件とを結び付けて考える(#15)などである。また、面接経過中1回のみであるが、#31で

幻覚様の体験も報告された。

こだわりに関しては、Ⅱ期から、課題を指示通りに制作しないということで教員の注意を受けるようになる。この課題におけるA子なりのこだわりは、卒業まで続き、教員から再三にわたる注意を受け、ついには「私は（専門科目の）先生達に嫌われている。私のセンスをわかってもらえない。」（#37）と被害意識を抱くことになる。A子のこだわりは、「役に立つこと」にもあり、献血（#19）や寄付（#31）、クラブ（#32）で役に立つことに固執する。また、Ⅳ期での食事に対するこだわりなどは強迫行動的な傾向を帯びている。

このような特徴を持つA子は、中学生時代のいじめ体験に代表されるように、自己肯定的な体験より否定的な体験をすることの方が多かったであろうと推測される。それは、中学時代国語の先生にほめられたこと（#7）、教育実習でほめられたこと（#36）などの他者からほめられた体験が極端に少ないことにも示されている。面接で語られたA子の自己イメージは、否定的なものが多く、「私は弱いんだろうか。もっとしっかりしないといけないのに。」（#24）や、「まともな人になるように努力したい。どこへ行っても浮いてしまうのでまともな人になれるように努力したい。」（#34）、「私は（専門科目の）先生達に嫌われている。私のセンスをわかってもらえない。友人に言ったら、あくが強いからじゃないかと言われた。それはしょうがない。どうしようもない。成績が悪かったら展示をしてもらえない。これだけ一生懸命やっついてだめなのはショックだ。」（#37）と、低いセルフ・エスティームを抱いていることを想像させるものである。また、夢①（#13）は、自分を守るために相手を攻撃したが、自分も怪我をして、相手は救出されたが自分には助けがないという内容であり、Cl.が傷ついていること、助けのない状態にいることを思わせる。しかしながら、Ⅲ期の教育実習体験は、教師の立場に立って学校生活を送ることで、「いい思い出はない」（#7）中学時代についてA子自身納得するという良い体験となったことや、他の実習生から「個性的、面白い人」（#25）と受け入れられるという自己肯定的な体験になったと考えられる。

2) 発達障害の視点を取り入れたケース理解

2005年に施行された発達障害者支援法では、発達障害とは、「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されている。岩田・小林・関・杉田・福田（2004）は、学生相談室を対象として、学生相談室において関わった発達障害の学生の有無、当該学生の来室経路と主訴・問題内容、当該学生を発達障害と疑った根拠・理由、学生相談室が行った援助・対応の仕方等を調査した。その調査で、学生相談室に関わった発達障害の学生のうち広汎性発達障害と診断されたまたはその疑いのある者が多かったこと、発達障

害の内容に関わらず対人関係の問題が見られたこと、広汎性発達障害の疑い、学習障害または注意欠陥多動性障害の疑いとされる学生に対人関係の問題の訴えが多く認められたことを明らかにしている。

発達障害の視点から、A子のケースを検討するならば、A子の抱えている問題がより明白になると考えられる。すなわちA子の行動・心理的特徴は、発達障害の内容が示す特徴と照合するならば、広汎性発達障害、中でもアスペルガー症候群の特徴と類似点が多く、A子がアスペルガー症候群と共通した問題を持っていると推察される。

木村(2004)によると、広汎性発達障害は、対人関係の障害、コミュニケーションの障害、こだわりや興味の幅の狭さと常同行動の3徴候もっている人を広く包括した概念であり、障害の程度に関して幅の程度がある、自閉症スペクトルとして考えられており、アスペルガー症候群は軽い方に位置すると考えられている。木村は、Wingによるアスペルガー症候群の中心的臨床特徴として、共感性の欠如、無邪気で穏当を欠く一方的な人への接し方、友人関係を作る能力の欠如または希薄さ、過度に細かく繰り返しの多い話し方、非言語コミュニケーションの乏しさ、特定の関心事に強く凝り固まる、動作の不器用さや組み立てのまずさ、姿勢のおかしさを挙げている。また、十一(2005)は、広汎性発達障害の基本障害である「対人的相互的反応性の障害」と「同一の事柄への強迫的固執や没入」のうち、対人的相互的反応性の障害の青年期以降の表れ方について、同世代の対人交流が複雑化するにつれて、周囲から明瞭に「浮く」ようになり、露骨なからかいをうけるなど対人的破綻の体験や不適応が自覚されやすくなると述べている。

A子の場合、面接で幻覚様体験が報告されており、統合失調症の疑いもないわけではない。しかしながら、杉山(2004)の指摘するように、A子の幻覚様体験はアスペルガー症候群にも見られる症状の一つと考えた方が適切であろう。すなわち、杉山は、DSM-IVの統合失調症型人格障害の基準とアスペルガー症候群に見られる症状を比較し、統合失調症型人格障害に対応する症状がすべてアスペルガー症候群に見られたことから、成人専門の精神科医が統合失調症型人格障害と診断している中に、アスペルガー症候群も混ざっている可能性のあることを指摘している。

A子の対人関係を持つことの困難さと、A子独特のこだわりは、軽度ではあるが、アスペルガー症候群または特定不能型広汎性発達障害を疑わせる。十一(2004)は、アスペルガー障害や特定不能型広汎性発達障害において、対人相互的反応性の障害が目立たなさや障害がもたらす困難や問題の大きさが比例しないと言う事実が見過ごされる傾向にあると指摘し、目立たなさをゆえに診断や支援のないまま一般社会に身をおく可能性が高く、そこで複雑で応用的なやり取りなどの高次対人状況を体験し、混乱状態に陥ることもあると述べている。

A子の課題へのこだわりは、授業担当教員により繰り返し注意を受け、「真面目に取り組んでいるのに、先生から、『もう来なくてよい』『ふざけている』と批判される。」(#35) ことになる。A子のこだわりが、A子の抱えるハンディから生じていることをCo.が把握し、教員にA子に対する理解を求めているならば、その対応は異なっていたであろうし、A子は自己否定的な体験を回避できたと思われる。また、Ⅲ期から目立ってくる寮内でのA子の問題行動は、2年生になったことで後輩の世話役を引き受ける立場になり、十一(2004)の指摘する高次対人状況に置かれたことによる混乱状況であったと理解できる。

岩田ら(2004)は、発達障害の学生を理解する方法として、生育歴の聴取と、成人の発達障害のためのチェックリストの利用、医療機関受診(紹介)を挙げている。A子の場合、保護者に生育歴を聞く機会が2度もありながら、Co.は当座の問題のみ扱っている。A子のように障害の程度の軽いケースでは、周りもそれと気付かず教育的な配慮がなされにくい恐れがあり、障害の程度が軽いほどCo.がより積極的に関係者へのコンサルテーションをする必要があると考えられる。

3) A子に対する学生相談における支援の問題点

面接当初、Co.は、A子にいじめや自殺未遂の経験があることから、対人関係が難しい人であろうと予想したが、A子の所属する学科が実技系であり、専門科目の授業は個人活動を中心としており対人関係の問題は生じにくい状況にあると考えられることから、寮生活への適応を支援することを面接の目標としていた。Ⅱ期で、A子にてんかんがあることがわかってからは、病気と付き合いながら学生生活を送ることを面接の目標に設定している。同時期に、Co.は、Cl.が継続して来談することに対して、疑問も感じていた。岩田(2003)は、高機能広汎性発達障害の場合の面接について、学生との関係を保持し続けうところにカウンセラーの役割の重要性があることを指摘している。岩田によれば、高機能広汎性発達障害はたとえ知的に高いとしても社会性の障害が明確にあり、大学の中では一般的に変わった学生としてとらえられても仕方がないところがあり、学生相談カウンセラーは、そうした状況の中で生活する彼らをきちんと理解した上で根気強く関係を保ち続けうことに意味があると言う。また、西口・伊藤(2004)は、高機能自閉症の男子大学生に対して3年後期から卒業までの1年半、学生相談室と卒業研究指導教員が連携して支援を行った事例を報告し、面接では、一方的で自閉症特有の不自然さのあるコミュニケーションであったが、それを修正することよりも対話を楽しむことや、情緒を共有することを大切にたと述べている。岩田ら(2004)も、発達障害の学生に対してまず必要となるのは、コミュニケーションが不得手である自分を理解しようとしてくれる人がいると感じてもらふことであろうと述べている。A子との面接の場合、発達障害という視点は取

り入れてなかったが、卒業までA子と Co. の関係が維持されたことは、孤立しがちであったA子にとってはありのままの自分を受け入れてもらえる場が学内にあるという、非常に意味のあることであったと思われる。

一方、ソーシャルスキルの獲得という側面に関しては、面接場面のみで扱うには限界があると考えられる。A子の場合、寮生活やアルバイトなどの実際の場面における対人関係の経験は必ずしも肯定的な体験ばかりではなかった。未熟なソーシャルスキルが特徴のひとつである発達障害の学生では、実際の対人関係を体験することは、低いセルフ・エスティームを助長させることに繋がる場合もあることを考慮するならば、関係者への対応など環境調整が必要であると同時に、SST などのプログラムを用意するなど、より積極的な対策も必要であろう。例えば、奥住・北島・小池・藤野(2005)は、LD, ADHD, 高機能自閉症の中学生と高校生を対象として、休日にグループ活動を実践しており、社会に出て自立する時のために青年期に体験しておきたい具体的な活動から成り立つプログラムを紹介している。大学生を対象とした、このようなグループ活動を、学内外で用意することも必要であろう。

岩田(2006)は、発達障害の難しさについて、障害の見えなさとともに、当事者自身も特性の認知・受容をしにくいところにもあると述べている。自分の特性を認知・受容することは、大学における専門分野の選択や職業選択において非常に重要な意味を持ってくる。A子の場合、自分の特性をどの程度認知していたかは疑わしい。独立行政法人国立特殊教育総合研究所(2005)によると、発達障害のある学生は、職業選択や就職活動、就労後の適応についても困難を余儀なくされることが考えられ、就労に向けた支援が学生相談における重要なテーマとなると指摘されている。本事例では、I期からアルバイトの話題が出ており、Ⅲ期以降、就職も話題に出るようになり、中でも#28では、夏休み中の就職活動の様子が語られている。こうした話題を通して、Cl.の自己理解を進め、就労へ向けてのキャリア・カウンセリングを導入すべきであったと思われる。

4) 今後の課題

大学における発達障害の学生に対する支援は、卒業に向けての支援と就労に向けての支援があり、学生本人と関係者へのそれぞれの対応が必要となる。この支援を行うにあたって、大学構成員が発達障害についての正しい理解をすることが重要であり、学生相談室を中心とした学内における支援体制の整備が必要であろう。学生相談室カウンセラーは、学内における関係者へのコンサルテーションを行う役割を担うことになると予想される。学生を取り巻く環境を調整する一方で、学生のソーシャルスキルを向上させるためのプログラムが学内外で用意されることが望まれるが、大学生を対象としたプログラムの考案と実践に関する研究はほとんどなく、

今後検討されるべき課題である。就労へ向けての支援は、まず学生が自己理解を十分行い、自分の特性を認知・受容した上で、自分の特性にあった職業選択を行うための取り組みが必要であり、学生相談に、キャリア・カウンセリングが導入されることが望まれる。

謝辞 本事例の情報公開に関して、A子さんの承諾を得ています。貴重なデータを提供してくれたA子さんに心から感謝いたします。

文 献

- 独立行政法人国立特殊教育総合研究所 2005 発達障害のある学生支援ガイドブック ジアース教育新社
 岩田淳子・小林弥生・関真利子・杉田裕美子・福田真也 2004 発達障害の学生への理解と対応に関する研究 学生相談研究 25, 1, 32-43.
 岩田淳子 2003 高機能広汎性発達障害の大学生に対する相談について 学生相談研究 23, 3, 243-252.
 岩田淳子 2006 考え方と事例：発達障害のある学生への支援 臨床心理学 6, 2, 207-211.
 木村宜子 2004 アスペルガー症候群の診断と対応 降旗志郎（編著）軽度発達障害児の理解と支援 105-129 金剛出版
 文部科学省 2004 小・中学校における LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案） 東洋館出版社
 西口夫巳枝・伊藤高廣 2004 高機能自閉症の学生への卒業までの援助の試み 学生相談研究 25, 2, 107-115.
 奥住秀之・北島良夫・小池敏英・藤野 博 2005 青年期 LD, AD, 高機能自閉症児の休日活動支援 東京学芸大学紀要1部門 56, 321-327.
 杉山登志郎 2004 アスペルガー症候群および高機能広汎性発達障害のための援助 降旗志郎（編著）軽度発達障害児の理解と支援 130-157 金剛出版
 十一元三 2004 アスペルガー障害と社会行動上の問題 精神科治療学, 19, 1173-1178.
 十一元三 2005 高機能自閉症, アスペルガー障害, 医療 若子理恵・土橋圭子（編）自閉症スペクトラムの医療・療育・教育 141-155 金芳堂